

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者一人ひとりの尊厳と心の満足をかなえるために、職員全員で話し合い理念を作り掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員が共通の認識を持ち、毎朝理念を唱和し確認している。理念を常に念頭に置いて、入居者の自信と満足・心と心がふれあう信頼の場・一人ひとりに合ったケアを考え、意識して取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関に掲示している。家族の面会の折やグループホーム通信において、入居者の方が地域に出かけた際の話や伝えたり写真を見ていただいたりしている。地域の方には法人全体で開催する行事等に参加した折に、理解を深めていただいている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>季節毎の行事(念仏講・虫送り・餅つき等)に参加して下さったり、桑寿園祭では地域住民の方が多数来場し、地域の方と馴染みの関係ができています。近くの神社の神楽や初詣・小中学校に出向くと、皆さん気軽に声をかけてくれたり、農家の方がボランティアで畑を耕してくれる。地域の方がホームにいらした際に介護相談を受けることもあり、内容によってはサービスを紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		行政からの情報提供は、運営に反映させていきます。
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員交替時には入居者や家族に不安を与えないよう、職員同士のフォロー等を行い、ダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員には施設の概要や理念の説明があり、そのあと配属先にて働きながら技術や知識を身につける工夫をしている。年3回の内部研修会で共通の認識をもてるようにしている。外部研修にも参加させ、伝達研修や復命書を閲覧できるようにしている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国及び西北五グループホーム協会に加盟し、総会・研修会には職員を参加させている。また開設者研修・認知症実践者及びリーダー研修の現場実習を受け入れ、現場での意見交換等の機会も実践している。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務の流れは随時チェックし、入居者に迷惑をかけない範囲で業務変更して負担を軽減している。休みの希望は業務に支障がない限り取り入れ、職員同士の人間関係を把握するように努めている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員に年2回の健康診断を実施し健康管理を行っている。また職員が向上心を持って働けるよう、外部研修に参加させたり、資格取得を奨励している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談されたときは、担当の介護支援専門員から情報を収集して、本人及び家族から困っていることや不安なことをよく聞くことにしている。そして本人だけでなく家族の不安な気持ちを受け止めるようにしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時本人・家族の思い、状況等を確認し、本人に合ったサービスを提供できるようにしている。包括支援センターに繋げることもある。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族にはホームの見学をしていただいているが、見学できない場合には職員が訪問し、馴染みの関係作りに努めている。また希望や性格・生活歴を良く知り、家族と相談した上で本人が馴染みやすいように居室を整えている。他入居者との関係作りにも配慮している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>地域の行事を大切に、職員と一緒に過ごしながらか家事や季節の行事を通して共感し学び、支え合う関係ができています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの生活の様子を家族に伝え、支援の方向性を決める際は、家族の意見も参考にしている。家族との外出・外泊を支援している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行動障害により本人と家族との関係がうまく行かなくなり、入居された方もいます。本人の生活が落ち着いたり家族が認知症に対する理解を深めることで、よりよい関係となるよう支援している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入居したことで関係が途切れないように、行きつけの美容院や商店の利用、友人との交流が続くよう訪れやすい環境づくりをしている。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の生活歴や性格、認知症の症状に合わせて、入居者同士の関わりがスムーズにいくように支援している。関わりのもてない、または一定時間以上の関わりが難しい入居者には職員がかかわり、孤立やトラブルが生じないよう努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院でサービスが終了しても、家族が遠隔地に住んでいる方は支援を続けることがあります。また退院後の状態によりの確なサービスが受けられるよう、他事業所と連絡を取り合うこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人との会話のなかや日頃の行動を観察して、思いをくみ取れるよう努めている。そして家族の意見も参考にして、ケア会議でどうすれば一番良いのかを検討している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>担当の介護支援専門員やご本人・家族から、十分な情報を得て、ケアサービスの決定に利用している。センター方式も併用している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>職員は24時間の流れで個々の入居者の過ごし方や「できること・できないこと」を把握する他、毎日の申し送りやケア記録で、身体面はもちろん精神的な変化等現状の把握に努めている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回ケアプランは本人・家族から話を聞き課題を把握し、それをもとに作成している。以降は本人の意向や職員と一緒に生活した上での気づきを取り入れ、具体的なケアプランを作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月2回のケア会議や3ヶ月ごとのモニタリングを実施した上で、入居者個々のケアプランを作成している。現状が計画に合わないような変化が生じた場合、その都度ケアプランの見直しをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に本人の様子を分かりやすく記入し、その情報を共有しケア会議やモニタリングを行っている。その上でケアプランの見直し、ケアの実践に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に添い、送迎を行ったり一緒に墓参りに行くこともある。 ご夫婦で入居される方には続き部屋となる居室を、併設の特養で特殊浴槽での入浴も可能です。短期利用も対応できます。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の祭りや行事に民生委員やボランティアの協力があるほか、女子美OG会の絵手紙教室、消防署の総合防災訓練、小中学校の運動会や発表会の招待等、地域ぐるみで支援されている。		
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況から他のサービスが必要と判断された場合、他のサービス事業者と話し合い、サービスが利用できるように支援している。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターと連携を図っている在宅介護支援センターソーシャルワーカーと協働している。		



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からの主治医に継続して通院している。職員が送迎・受診介助を行い、本人の状態を把握している。緊急時にも受診ができるように、医療機関と連携を図っている。</p>		
41	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>毎月母体施設の嘱託医(精神科)に診察を受けられる。その時は付き添い、必要な情報を医師に伝えたり相談したりしている。</p>		
42	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携体制を整え、看護職員と連携している。また母体施設の看護師や通院先の看護師と日頃から気軽に相談出来る関係を作り上げている。</p>		
43	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入退院時の連携はもちろん、定期的に面会し入居者や家族が不安にならないよう充分配慮し相談に努めている。退院後本人が何らかの医療的措置が必要な場合は、適切な施設を利用できるよう支援している。</p>		
44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制を整え、早い段階から本人特に家族に意思確認し、かかりつけ医や特養看護師も加わり話し合っている。終末期のケアについて家族に説明し、同意書に署名をいただくことになっている。</p>		
45	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>母体施設の嘱託医が主治医となっている場合には、特養看護師と連携を図り終末期まで支援も可能です。但しグループホームで「できること、できないこと」は伝えた上で家族と話し合い、変化があった場合もその都度話し合いの場を持つことにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食は入居者の方と一緒に献立を考えたり、畑で採れた野菜を使って調理している。食事の準備や後片付けも一緒に行い、活躍の場をつくり満足感が得られるようにしている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	居室内に冷蔵庫を備えている方もいる。医療的な問題を抱えている方にも、制限されている感じを与えないよう、一人ひとりに合わせて提供させていただいている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は個々の排泄パターンを把握している。また介助に入る場合は他入居者に気づかれないようにし、排泄用品も一人ひとりに合ったものを使用している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は毎日です。朝の挨拶の時入浴希望をとり午後からの入浴している。入浴されない日は足浴していただいて皮膚疾患の改善を図っている。入浴拒否の強い方は、チームプレーで対応している。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室は馴染みの家具を持ち込んでいただき、心休まる環境作りを心がけている。冬季間湯たんぽを使用する人もいる。夜間安眠ができない方は眠剤に頼るのではなく、飲み物やお菓子などを提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業、チラシでゴミ入れ作り、花の手入れ、家事、カラオケなど、一人ひとりのできること・できないことを見極めた上で活躍の場を提供している。今では入居者の生活の一部になっている。		


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望や能力に応じて異なり、本人自ら銀行から預金を下ろして支払いをしている方もいる。家族から小遣いを預かっている場合は、買い物外出の折は自ら支払いができるよう支援している。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>通院や買い物、理美容院への外出支援はその都度行っている。以前利用していたデイサービスを時々訪問している方もいる。天候の良い時は日常的に散歩をしたり、弁当を作って戸外で食べることもある。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>墓参りに家族と一緒に行けない方には、花や供物を準備し同行している。また季節の花見・さくらんぼ狩り・ワラビ採り・紅葉狩りなどに出かけたり、自宅に戻るときなど送迎を行っている。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公衆電話は設置していませんが、事務用の電話は皆さんが使えることになっている。携帯電話を所持している方もいます。電話をかけられない方には介助し、手紙の宛名書きも手伝っている。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>早朝・深夜を除いて特に面会時間には制限を設けていません。玄関先は調度品や花を飾り、入りやすい雰囲気作りをしている。面会場所は居室を原則としているが、本人の共有空間での居場所で一緒に過ごされることもある。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>介護上必要がある(入居者自身または他入居者の生命・身体を保護するため緊急やむを得ない)場合のみ、管理者他職員から構成される「身体拘束廃止委員会」において十分協議し、家族の同意を得た後最小限実施する。この場合実施状況を記録し保存するが、今まで拘束を行ったことはない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠しないことにして、自由に玄関から出られる。その際は、職員が見守りを行っている。階段上の出入り口は、転落防止用に施錠している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りができる勤務体制をとっています。常時所在確認が必要な方には、玄関から出ても制止せずに本人の気持ちを損ねないように同行するようにしている。職員は入居者の行動を制止することは、かえってよくない結果を招くことを周知している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の能力に応じて、裁縫道具や果物ナイフなど生活に必要な物品を所持してもらっています。管理が難しい方には、必要な物品はその都度貸し出し見守りをしている。危険な洗剤などは、鍵のかかる場所にしまっている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせ、歩行時の見守り・付き添い、食事時の見守り、玄関から出る方には職員が付き添うことになっている。誤薬防止のため、3回チェックできる手順を踏み手渡ししている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	想定される急変や事故発生時(喉詰まり、骨折、けが、無断離園など)の対応は、マニュアル化され目に付きやすい場所においている。急変時対応は月1回看護師の指導のもとテーマを決め行っている。緊急連絡網の訓練も行っている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、総合防災訓練を実施している他、ホーム独自で避難訓練を行っている。職員連絡網は見やすい場所に掲示している。災害時用の非常食は、併設特養と共に備蓄している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族には転倒の危険や心疾患、高血圧そして糖尿病による急変の可能性を伝えている。しかしそれゆえの生活の抑制はせず、見守りや健康チェックで対応していることも話している。職員は状況を共有できるように、パソコンの申し送りで各自確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝表情を観察したり体調確認のため血圧・体温測定し、毎月体重測定して記録している。入浴時には皮膚状態を確認し、異常があった場合すぐに対応している。その内容は、口頭やパソコンでの申し送りで共有できるようになっている。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の病名と内服の種類は、1枚の用紙にまとめ職員が確認しやすいようにしている。処方が変わった場合は、変化をこまめに記録している。服薬時、薬は手渡しし服用を確認している。		
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が血圧上昇や食欲不振、認知症の周辺症状を助長することを、職員は知ってる。食事や運動等で自然排便を促しているが、下剤を服用している場合は排便回数と形状をチェックしている。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後義歯洗浄の声掛けや介助、夕食後は義歯洗浄剤に浸し清潔を保っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士が作成しているので、栄養の偏りは防止できている。水分・食事とも毎回摂取量を記録して、不足な場合は本人の嗜好品を取り入れた補食で対応している。栄養状態を知るために、月1回体重を測定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の研修を母体施設の看護師や管理栄養士が流行前に行っている。流行時期にはうがい・手洗い・飲み物に生姜湯を用い、手すり・ドアノブはハイターの薄め液で拭き予防に努めている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日配達され使い切りです。冷蔵庫の掃除は毎週日曜日に実施し、布巾・おしぼり・まな板は每晚ハイター消毒し、雑菌の繁殖を防止している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放感のある玄関先は広く、スロープがつきプランターの花を飾って明るくしている。玄関内は違和感のない自然な装飾にしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に安らげる感じの色遣いや素材のものを使用している。壁面の飾り付けは季節毎に変え、入居者の作品を額に入れて飾り、落ち着いた雰囲気になっている。トイレ前にはのれんを下げ、プライバシーに配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと一緒に過ごす場所と個別に過ごせる場所を分け、個々に居場所が自然に定着している。しかし入居者同士のトラブルを避けるため位置を変えるなど、柔軟な対応も心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「自信と満足を与えるように努める」をモットーに、入居者一人ひとりから笑顔を引き出せるようなサービスを提供しています。入居者・家族から信頼されることを第一とし、それがなければ良いサービスはできないと考えています。

1.地域の伝統行事を行っています。特に地域の方と触れ合える行事は、みなさん楽しみにしています。

1月...初詣 3月...念仏講 4月園内花見会 5月...虫送り 7月...つがる市ねぶた祭 8月...桑寿園祭 10月...観音祭 12月...餅つき

2.よりよいサービスを広げるため、3ユニットでクラブを設立し4年が経過し充実してきています。

なでしこクラブ...行事(バーベキュー 敬老会 忘年会)やミニ運動会など催し物の企画・運営。

えだまめクラブ...畑作りとその収穫・秋祭りの企画・運営。

りんごクラブ.....隔週の日曜日に集まり、手芸やおやつを作る。季節の花を見学したり、買い物外出を企画。